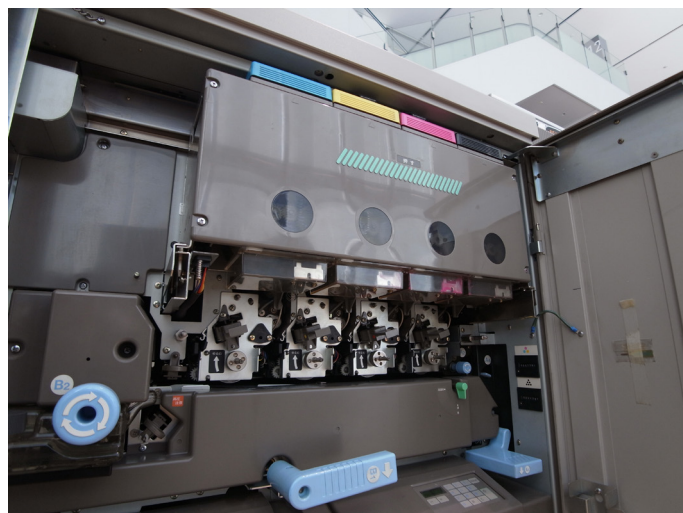


1990年10月

リコー初のデジタルカラー機「ARTAGE 8000」を発売

当時の一般的なカラーコピーは、A4の複写に1枚あたり5分程度の時間がかかっていました。この主な理由は、1つのドラムにCMYK(シアン、マゼンタ、イエロー、ブラック)の4色の作像を繰り返していたためです。この点に着目したリコーは、4色のカラーを同時に処理可能な4ドラム感光体システムを開発。このシステムを搭載したデジタルカラー機「ARTAGE 8000」は、世界最速(当時)毎分15枚の圧倒的な高速カラー出力を実現し、また、さまざまな紙種へのコピーも可能にしました。本機の誕生により、一般オフィスにおけるカラーコピー活用が現実のものになったのです。



1 スキャン4ビーム、4連ドラム方式を採用した
リコー独自のフォーサム・ドライブ



ARTAGE 8000 (1990年)